

多くの病人をいやす

マルコによる福音 1:29-39

すぐに、一行は会堂を出て、シモンとアンデレの家に行った。ヤコブとヨハネも一緒であった。シモンのしゅうとめが熱を出して寝ていたので、人々は早速、彼女のことをイエスに話した。イエスがそばに行き、手を取って起こされると、熱は去り、彼女は一同をもてなした。夕方になって日が沈むと、人々は、病人や悪霊に取りつかれた者を皆、イエスのもとに連れて来た。町中の人々が、戸口に集まった。イエスは、いろいろな病気にかかっている大勢の人たちをいやし、また、多くの悪霊を追い出して、悪霊にものを言うことをお許しにならなかった。悪霊はイエスを知っていたからである。

朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた。シモンとその仲間がイエスの後を追い、見つけると、「みんなが捜しています」と言った。イエスは言われた。「近くのほかの町や村へ行こう。そこでも、わたしは宣教する。そのためにわたしは出て来たのである。」そして、ガリラヤ中の会堂に行き、宣教し、悪霊を追い出された。

説教

マルコの福音は簡潔に記述されます。イエスが洗礼者ヨハネから洗礼を受け、その後40日間荒野での悪魔の誘惑に耐え、洗礼者が逮捕されたと聞いてガリラヤに向かう。マタイやルカの福音ではイエス誕生や家系図の説明などがあり、長くなるのですが、マルコではこれらがたったの1ページ（新共同訳聖書では）で終わります。イエスは弟子を召し、安息日に会堂で教え、悪霊に取りつかれていた人をいやしました。ここまでが先週で、今日の箇所はその続きで、同じ1日の間の出来事です。

「すぐに」29節「夕方になって日が沈むと」32節「朝早くまだ暗いうちに」35節と時間を追って、カファルナウムでのイエス宣教開始の初日の様子が伝えられています。

30-31節にシモンのしゅうとめについての短い話があります。「手を取って起こされる」というイエスの動作は印象的です。イエスは病気の人に触れて、その人をいやしました。イエスに触れられることは、病人にとってどれほど大きな励みだったでしょう。このエピソードはルカの福音書にもありますが、そこでのイエスは熱を叱ったとあります。細かいことですが、ここにマルコ福音書の特色がでていられるのかもしれませんが。マルコはわたしたちに、ことばのイエスではなく、わざの、行いのイエスを詳しく伝えてくれます。夕方になって多くの病人がやってくるのは、夕方で安息日が終わったからでしょう。安息日にはたとえ病気治しであっても当時の律法は禁じていたようです。

イエスの活動は「宣教し、悪霊を追い出す」とマルコは記述します。悪霊を追い出すと病いを治すことは、現代ではべつものかもしれませんが、当時は同じことと信じられていたようです。ところで「宣教する」と訳されたギリシア語の「ケリュツソー」は、「告げる、のべ伝える」という意味です。何をのべ伝えるかといえば、1章14-15節にあった「神の福音」、すなわち「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」ということ（これはマルコ福音でのイエスの第一声でもあります）になります。

ところで信じろというその内容とは「福音」とは何か？

実は、マルコを読み進めていってもこれだ、という箇所にはわたしはめぐり合いません。

よく聖書の中の聖書などと紹介されるみことばがあります。

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。ヨハネ3:16

「永遠の命」なるほどそうだなとも思いますが、神、世、愛、独り子などすこし説明的すぎて、これが福音というにはちょっと違和感がある人もいりましょう。

キリストが、聖書に書いてあるとおりにわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。

一コリ 15:3b-5

一般的に初代教会の伝えている福音とはこのことだ説明されます。使徒言行録の10章でペトロがローマ軍人のコルネリウスに語っている箇所でも同じ内容が伝えられています。（引用が長くなるので最後にのせますので参照してください）

福音がイエスが十字架で死んで復活することだとすると、その内容の福音をイエスが自分で宣教することはできません。しかし、残された弟子たち、そして信者にとって復活のイエスを言い表すことこそが第一の使命でした。ある文言だけをとりあげてこれこそがイエスの教えである、と断言することはできません。それはイエスの生涯そのものが福音だといえるからです。それはとても一言で言い表せるものではないでしょうし（イエスでなくたってふつうの人でも同じことです）また、書き表すこともできないことでしょう。ヨハネ福音書ではにはこのよう締めくくられます。

イエスのなさったことは、このほかにも、まだたくさんある。わたしは思う。その一つ一つを書くなれば、世界もその書かれた書物を収めきれないであろう。ヨハネ 21:25

わたしたちはヨハネのこのことばに習うなら、ふつうの意味でイエス物語を読むことも聞くこともできないでしょう。一人で聖書を読む、みことばに耳を傾けることは決して軽んじることはできませんが、わたしたちが、主日に集まって、集められて、みんなでみことばを聞くことこそが主イエスが宣べつたえた福音である、理屈ではうまく説明できないのですがそこにこそ福音を理解するポイントがあるとわたしは信じています。

◆ペトロ、コルネリウスの家で福音を告げる

10:34 そこで、ペトロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさないことが、よく分かりました。

10:35 どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。

10:36 神がイエス・キリストによって——この方こそ、すべての人の主です——平和を告げ知らせ、イスラエルの子らに送ってくださった御言葉を、

10:37 あなたがたはご存じでしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。

10:38 つまり、ナザレのイエスのことです。神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。

10:39 わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなされたことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、

10:40 神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。

10:41 しかし、それは民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです。

10:42 そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。

10:43 また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しが受けられる、と証ししています。」

◆異邦人も聖霊を受ける

10:44 ペトロがこれらのことをなおも話し続けていると、御言葉を聞いている一同の上に聖霊が降った。

10:45 割礼を受けている信者で、ペトロと一緒に来た人は皆、聖霊の賜物が異邦人の上にも注がれるのを見て、大いに驚いた。

10:46 異邦人が異言を話し、また神を賛美しているのを、聞いたからである。そこでペトロは、

10:47 「わたしたちと同様に聖霊を受けたこの人たちが、水で洗礼を受けるのを、いったいだれが妨げることができますか」と言った。

10:48 そして、イエス・キリストの名によって洗礼を受けるようにと、その人たちに命

じた。それから、コルネリウスたちは、ペトロになお数日滞在するようにと願った。